



## 花に癒され

## 花を愛する

はせがわ はるえ  
長谷川 晴枝さん

10月12日から16日に開催された第28回全道シルバー作品展において工芸の部で北海道知事賞を受賞したアートフラワー作家で師範の免状を持つ長谷川晴枝さんにお話を聞きました。

### 花に癒され作品作りへ

**亡き** 主人が転勤族であったため、転勤の度に知人がいない地域へいくことが多く、寂しい思いをしていました。ある時、引っ越し先の住宅に前の家主さんが植えていた花を見て、心が癒されました。こんな花との出会いから、きれいな花に興味を持ち、子どもが手をはなれる頃、今から45年ほど前にアートフラワーの教室に通い、作品を手掛けるようになりました。

### 長く付き合う良きライバル

**同じ** ころ一緒に通っていた方とは今でも交流があり、月に2回はお互いの家に行き、作品づくりに没頭します。私たちの作品は、針金や布、綿などを使うアートフラワーです。題材とする生花の花びらや葉を1枚ずつはがして型紙をとり、布を切って色付けをします。つぼみの部分には綿を入れて膨らませたり、葉脈は針金やコテを使って

実物のように表現します。同じ花を題材にしても、感覚の違いで、少しざらつき感のある布を使ったり、絹のような肌触りの布を使ったりと2人で意見が分かれることもあります。そんな時は、出来上がりで勝負しようとする時にはケンカ腰になったりもしますが、長くお付き合いさせていただいている良いお友達です。今回、北海道知事賞をいただいた作品にも彼女からの助言を生かさせてもらっています。

### 教えながら自分も学ぶ

**アート** フラワーの師範免状を取得してからこれまで、教室を開かせていただいています。多い時には、10数人の生徒を教えていましたが、今は5人くらいでこじんまりと続けています。教える立場なのですが、生徒さんの方が熱心に勉強しているので、私が教えてもらってる時も多々あります。花によって花びらや葉、茎の質感がそれぞれ違うので、材料もさまざま

な素材のものを使います。例えばカンガルポーという花のモコモコした質感を出すために、コーヒの粉末を使って表現しています。

### きれいな花を作り続ける

**全道** シルバー作品展には、これまで20回以上出品しています。正直、今回の作品がそれほど良いとは思えませんが、この歳(84歳)まで出品したということも踏まえての入賞だと、大変ありがたく思っています。最近が高齢のためか、指先にしびれがあって、昔ほど器用に動かせなくなっています。家の作業部屋には、材料や道具がまだまだたくさんあるので、人の心を癒せるような作品を一生作り続けたいと思います。

作業部屋では時間を忘れて作品を手掛けるので、息抜きに家庭菜園や庭仕事をしているそうです。「土に触れる作業は、大地からエネルギーをもらえて元気になるんですよ」と笑顔で話してくれました。(11月14日取材)